

(第62期)

貸借対照表

(2022年3月31日現在)

旭化成ファインケム株式会社

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)	円	(負 債 の 部)	円
流 動 資 産	4,990,112,798	流 動 負 債	4,555,016,748
現 金 及 び 預 金	-	買 掛 金	493,859,278
受 取 手 形	5,764,671	短 期 借 入 金	2,221,685,333
売 掛 金	1,634,695,993	一 括 借 入 金	-
製 造 掛 金	1,078,753,143	未 払 金	727,742,039
仕 材 及 び 貯 蔵 品	989,830,315	未 払 費 用	884,121,688
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	566,072,968	前 払 受 取 金	105,733,477
前 払 費 用	12,554,237	未 払 住 民 税 及 び 事 業 税	2,758,500
未 収 入 金	379,719,761	預 り 金	2,038,982
短 期 貸 付 金	-	そ の 他	117,077,451
立 替 金	4,120,313		
そ の 他 金	318,601,397		
貸 倒 引 当 金	-		
固 定 資 産	4,815,957,291	固 定 負 債	464,974,152
有 形 固 定 資 産	4,052,319,493	長 期 借 入 金	-
建 物	1,691,735,582	一 括 借 入 金	-
構 築 物	458,992,885	繰 延 税 金 資 産	-
機 械 及 び 装 置	1,556,379,301	退 職 給 付 引 当 金	379,369,060
車 両 及 び 運 搬 具	5,692,361	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	-
工 具 、 器 具 及 び 備 品	80,795,499	預 り 保 証 金	85,605,092
リ ー ス 資 産	-		
土 建 設 仮 勘 定	96,819,506	(純 資 産 の 部)	(4,786,079,189)
	161,904,359		
無 形 固 定 資 産	94,911,403	株 主 資 本	4,786,079,189
の ソ フ ト ウ ェ ア	-	資 本 金	325,000,000
ソ フ ト ウ ェ ア 資 産	94,761,403	資 本 剰 余 金	732,206,722
そ の 他 の 資 産	150,000	資 本 準 備 金	-
投 資 所 他 の 資 産	668,726,395	そ の 他 資 本 剰 余 金	732,206,722
投 資 有 価 証 券	-	利 益 剰 余 金	3,728,872,467
関 係 会 社 株 式	-	利 益 準 備 金	81,250,000
長 期 前 払 費 用	-	そ の 他 利 益 剰 余 金	3,647,622,467
繰 延 税 金	2,342,902	配 当 平 均 積 立 金	45,000,000
繰 延 税 金 資 産	665,356,493	特 別 償 却 準 備 金	-
そ の 他 引 当 金	1,307,000	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	-
貸 倒 引 当 金	(280,000)	別 途 積 立 金	427,980,000
		繰 越 利 益 剰 余 金	3,174,642,467
		評 価 ・ 換 算 差 額 等	-
		そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	-
		繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	-
資 産 合 計	9,806,070,089	負 債 ・ 純 資 産 合 計	9,806,070,089

(第62期)

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……期末日の市場価格に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの……移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産

製 品……総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

原 材 料……総平均法による低価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

仕 掛 品……総平均法による低価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

貯 蔵 品……総平均法による低価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(3) デリバティブ等の評価基準及び評価方法……時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)……定額法

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

……ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

……その他の無形固定資産は定額法

(3) リース資産……所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金……債権の貸倒れによる損失に備えるために、売上債権の一定率を、回収不能見込額として計上している。

(2) 退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき計上している。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、有機化学薬品の製造・販売を主な事業としている。製品の販売については、製品の引渡時点において、顧客が当該製品に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、顧客に引き渡された時点で収益を認識している。ただし、出荷時から製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である国内販売については、出荷時点で収益を認識している。

収益は顧客との契約において約束された対価から、返品、値引き及び割戻し等を控除した重大な戻入れが生じない可能性が高い範囲内の金額で算定している。

なお、製品の販売契約における対価は、製品に対する支配が顧客に移転した時点から概ね1年以内に回収しており、重要な金融要素は含んでいない。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。
- (2) ヘッジ会計の方法
繰延ヘッジ会計を採用している。なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用している。
- (3) 消費税等の会計処理方法
消費税等の会計処理は、税抜方式によっている。
- (4) 連結納税制度の適用
連結納税制度を適用している。
- (5) 連結納税制度からグループ通算制度への移行における税効果会計の適用
当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針28号）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規程に基づいている。

(会計方針の変更に関する注記)

- (1) 収益認識に関する会計基準等の適用
当事業年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）を適用している。約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識している。
この変更による当事業年度の計算書類への影響はない。
- (2) 時価の算定に関する会計基準等の適用
当事業年度より、「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日）を適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用している。
この変更による当事業年度における計算書類への影響はない。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当該事業年度の末日における発行済株式の総数
普通株式 200,000株
2. 当該事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項
(1) 2021年6月11日開催の株主総会において、次のとおり決議している。
普通株式の配当に関する事項
 (イ) 配当金の総額 100百万円
 (ロ) 配当の原資 利益剰余金
 (ハ) 1株当たり配当額 500円
 (ニ) 基準日 2021年3月31日
 (ホ) 効力発生日 2021年6月11日
3. 当該事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項
無配のため、該当事項はありません。